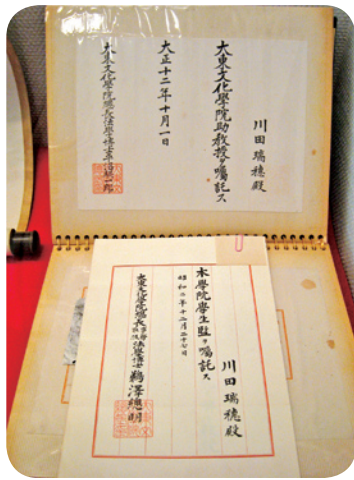


◆ 展示品から

大東文化学院創設時より助教授として教育に尽力した川田瑞穂（雪山）は、昭和初期を代表する漢学者であり、終戦時「終戦の詔書」を起草したことでよく知られています。今回の企画展では、学院創設にあたって助教授に就任した際の委嘱状をはじめ公開しました。戦火で戦前の学内公文書は焼けてしまいほとんど残されていない中、大東文化学院の貴重な資料となっています。

また、同窓生からはアルバムや写真類をご寄贈いただく機会が増えてきています。今回の企画展では、その中で最も古い時代のものである昭和16年度の卒業アルバムを展示しています。1枚ずつの「卒業写真」や軍事訓練の様子などは昭和初期のものが残されていますが、おそらくいわゆる「卒業アルバム」の形態で作成されるようになった初期の頃のものと考えられます。そのほかにも、これまでに同窓生の皆様からご寄贈いただいた写真類をはじめとして、在学時の思い出の品々や、戦時下で学徒出陣の際に仲間たちから送られた国旗寄書などを紹介しています。



<資料寄贈ご協力のお願>

大東文化歴史資料館（大東アーカイブス）では、学園に関わる資料を広く収集しています。教科書・講義ノートのほか、写真・映像、機関紙・新聞など、ご提供いただけるものや情報がありましたら、お気軽にご連絡ください。ご協力を宜しくお願いいたします。

平沼騏一郎 扁額

絹本に楷書で「敬立内直」と墨書する扁額（架蔵）は、大東文化学院初代総長（大正13年1月～同14年1月 1924～1925）、財団法人大東文化協会第3代会頭で、昭和14年（1939）には第35代内閣総理大臣に就任した平沼騏一郎の揮毫。この四字句の出典は『易経』坤卦文言伝に、「君子敬以直内、義以方外。敬義立而徳不孤。（君子は敬以て内を直くし、義以て外を方にす。敬義立てば徳孤ならず。）」とある文言を換骨奪胎して、平沼独自の四字句に仕立てたものと思量される。「敬立内直」の趣意は、邪心がなく有徳にして均整のとれた精神のあり方を言わんとするものであろう。平沼の好んだ文言であったようで諸所に同様の揮毫が存する。

扁額右上の陰刻引首印は「不忘敬」。落款「機外騏書」の「機外」は平沼の号、「騏」は名前の騏一郎による。その左側に陰刻で「平沼騏印」と陽刻「機外」の印章を捺す。

なお、当館『大東文化歴史資料館だより』第6号（2009年5月31日発行）には、「敬立内直」の四字句を五字句で「敬立而内直」と認めた本学中国学科中林史朗教授所蔵の同じく平沼自筆掛幅が紹介されているので併せて参照されたい。

（大東文化大学歴史資料館運営委員・日本文学科准教授 浜口俊裕）

